

まちのわだい

世界遺産登録への気運が高まる

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群シンポジウム



▲地元のボランティアとのパネルディスカッション

5月16日、「沖ノ島、その価値を未来へ伝えていくために」をテーマに「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群シンポジウムが、市文化会館カメラホールで開催されました。当日は560人ものかたが参加し、会場は満杯で立ち見も出るほどでした。

青柳文化庁長官や西村日本イコモス国内委員会委員長による考古遺産や景観をキーワードとした講演が行われました。

また、世界遺産登録に関わる活動を行う地元ボランティアのかたを交えた、パネルディスカッションも行われ、地元と世界遺産との関わり方について議論されました。

津屋崎千軒 よっちゃん祭

津屋崎千軒 よっちゃん祭が開催されました

4月18日、19日の二日間、津屋崎千軒周辺で18回目の開催となる「よっちゃん祭」が開催されました。市制10周年の記念パレードには、市内のさまざまな団体が参加し、沿道には多くの人が集まりました。また、毎年恒例の屋台や雑貨のお店、さまざまな展示コーナー、歌や踊りの楽しいステージなど多くの出し物が並び、お客さんたちはのんびり歩きながらお祭りの雰囲気を楽しんでいました。



▲お客さんで賑わう出店



▲横断幕を持って先頭を歩いた一日市長の子どもたち



▲ふくふくちゃんもパレードに参加 ▲光陵高校野球部員たち

福津市市制10周年をPR

どんたくに出場しました

5月4日に行われた「博多どんたく港まつり」のパレードに、市制10周年記念事業として「福津10周年どんたく隊」が参加しました。

パレードは、市内の事業所や学校などの団体から多くのかたが参加し、約160人の大きな隊になりました。記念式典で活躍した一日市長の子どもたちを先頭に、今年301年目を迎える津屋崎山笠や、光陵高校野球部、福津市商工会キャラクター「ふくふくちゃん」などで構成された賑やかな隊が博多のまちを歩きました。それぞれお揃いの衣装やユニフォームを着て、黄色い風船やのぼりを持ち、市制10周年をPRしていました。沿道のお客さんからは温かい声援が送られ、参加者は笑顔で手を振って返していました。

市民広報 ボランティア

第11回福津市成人(300歳)ソフトボール大会



真っ青に晴れた5月10日、今年も成人ソフトボール大会が開催されました。参加した57チームが3会場に分かれ、熱戦を繰り広げました。

各チームの男女が一生懸命プレーし、滑り込みや、激走する姿が見られ、会場は大盛り上がりでした。

各チームを応援しに来たかたがたの黄色い声援も飛び交い、非常に熱く盛り上がった大会でした。

【吉村 邦夫】

福間卓球クラブ



5月1日、福間卓球クラブを訪ねました。クラブでは、小学生から高齢者まで100人以上が会員として所属しています。取材当日は多くの高齢者が練習していました。また、みんながまんべんなく打ち合えるように、10分ほどでテーブルを移動する工夫も見られました。

ボールを打ち込む度に大きな声が出ており、卓球に励む高齢者から、活力を感じられました。

【山本 武利】

ジャガイモの芽かき



4月12日、背丈が10cmほどに成長したジャガイモの芽かきと土寄せ、畑の草取りを行いました。このジャガイモは、神興東郷づくりの環境部会2月28日に夢農場で植え付けをした4000個のジャガイモです。

芽かきは、大きなジャガイモを沢山収穫するために、芽の中から元気な物を残して掻き取る作業です。美味しいジャガイモに育ってくれることを願います。

【西ノ原 ゆき子】

アジサイロードで草刈り



5月9日、小雨の中上西郷川沿いのアジサイロードの草刈りをしました。アジサイはガードレールより大きくなった雑草に埋もれていました。草刈り機や鎌を使い、みんなで手分けをして作業をしました。

除草範囲は広がったのですが、100人を超えるボランティアの協力により、無事作業は終了しました。梅雨の時期にはどのような花が咲くのか楽しみです。

【福崎 信一】

鯛の美味しい季節がやってきた

ふくつの鯛茶づけフェアがスタート

5月16日、「ふくつの鯛茶づけフェア」(6月30日まで)が始まりました。5年目となる今年は、市内の飲食店や旅館など21店舗が取り組みます。「①玄界灘の天然真鯛を②ご飯にだしやお茶をかけ③お店の工夫でもてなす」という3つのルールを柱に、各店舗が競演します。

また、オープニングイベントとして、イオンモール福津で抽選会やパネル展示を開催し、鯛茶づけの魅力をPRしました。

毎年提供数を伸ばしている鯛茶づけ。今年のフェアでも1万食を超えることが期待されます。



▲毎年広まりを見せている鯛茶づけ

勝浦浜海洋スポーツセンターがオープン

美しい海に親しみを



▲来賓によるテープカット

4月25日、勝浦浜海洋スポーツセンターのオープニングセレモニーを開催しました。この施設は、宗像地域の青少年が、海へ親しむことなどを目的に整備しました。

当日は、ヨット帆走のデモンストレーションも行われ、海洋スポーツの魅力を発信しました。また、近くに住む花田さんは、「勝浦の海の良さを知ってもらい、地域に活気が湧くとうれしい」と話していました。

今後は、夏休み親子ヨット教室など、海洋スポーツの体験授業を計画します。

市民広報

ボランティア

ふくつの工芸に親しむ

津屋崎中学校美術部員がグラスづくり体験

5月18日、津屋崎中学校の美術部員が、ガラス工房マルチグラスでグラス作り体験をしました。この体験は、地域で工芸が盛んなことに注目した中学校と、地域への貢献をしたいと考えたマルチグラスの思いが繋がったことから実現しました。

体験した中学生は、はじめてながらも美しい模様のオリジナルグラスを作っていました。参加した津屋崎中学校3年生の上田さんは「ガラスの口を形作るのが難しかったけれど、楽しい体験ができた」と笑顔で語っていました。



▲津屋崎中学校美術部員がグラスづくりを体験

楽しく集える「ギャラリーYAA(ヤー)」



西郷川のほとりに4月19日にオープンしたばかりの「ギャラリーYAA」を訪れました。吉田さんをはじめとする趣味の仲間、車や船のコンテナを活用して営んでいます。

20坪のギャラリーは、趣味の絵画や、写真の発表の場として、無料で提供しています。交流を深め、楽しい時間を過ごしてもらおうと開設しました。

室内はとても居心地がよく、時を忘れます。目標は「大人のたまり場」。笑顔が集うギャラリーYAAです。